

令和4年度 雄野市教育委員会 教育基本目標評価シート

雄野っ子ワクワクデザイン令和4年(学校教育)

		教育委員会における自己評価			
具体的活動	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
(1)確かな学力の育成事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びを取り入れた「雄野メソッド」の徹底を図る。</li> <li>・「確かな学力育成委員会」等により、学習状況調査等の各種調査の詳細な分析に基づく課題把握とその対策の充実を図る。</li> <li>・「学びの習慣づくり」の活用により、自主学習など市内小中学校共通した取組を推進する。</li> <li>・小学校で英語専科教員を活用した指導方法の研究と実践を図る。</li> <li>・中学校において、「放課後等補充指導支援事業」により、基礎学力の向上を図る。</li> <li>・タブレット端末活用の充実に向けた研修とオンライン授業の試行・習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問や授業研究会等において授業を参観した。全ての学校で「雄野メソッド」による授業展開が確かな学力であり、児童生徒が主体的に学ぶ姿が見られた。</li> <li>・9月より確かな学力育成委員会において、全国調査の課題を把握し、対策を考え共通理解を図った。学力向上推進教員の授業づくりについての指導助言を、各学校での取組につなげることができた。</li> <li>・自主学習について、各学校で工夫した取組がなされた。雄野中学校区では小中学校間で学習コンテストに選ばれたノートを交換して掲示する取組も行われた。</li> <li>・10月より小学校の5・6年でマンツーマンの英会話、小学校3・4年でグループ対話等、オンライン英会話を実施した。内容や方法について、英語専科教員の意見を取り入れながらすすめることができた。大草野小学校で英語専科教員の授業公開があり、専科教員の授業力向上につながった。</li> <li>・市内4中学校で、「放課後等補充指導支援事業」を活用し、英語と数学の指導を年間340時間、実施した。</li> <li>・タブレット端末部会を3回実施(現時点では2回)、授業支援ソフト、学習支援ソフトの使い方の研修を行い、各学校でもそれを周知する研修を開くことができた。各学校でのタブレット端末の活用方法も共有する予定である(1月19日)。オンライン授業も必要に応じて行なわれてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が変わっても全職員で「雄野メソッド」による授業展開や、学力向上に向けた取組を継続していくことが大事である。</li> <li>・1日の家庭学習の時間として、「学年×10+10分」を提示しているが、達成率は80%程度であることから、学習の習慣化が課題である。</li> <li>・「オンライン英会話」を通して、子ども達が英語に慣れ親しむことができるように、関係者と内容や方法を検討する。</li> <li>・学校や教員によって活用の温度差がある。また、Wi-Fiへの接続状況がよくないことも活用を妨げている要因になっている。</li> <li>・家庭への持ち帰りについては許可をしているが、充電器の問題等の課題がある。</li> <li>・来年度もGIGAスクール構想部会で、活用事例を共有したり、県教委主催の研修会への積極的参加を促したりする。Wi-Fi環境の改善もすすめて行く。</li> <li>・すべての教職員が積極的に活用できるよう、具体的な事例を周知する。</li> <li>・充電器の確保を図り、持ち帰った場合の有意義な活用法を周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問や授業研究会等において指導助言を行ったり、よい取組については、引き続き校長会や部会で紹介することで広めていく。</li> <li>・「らくさんプラン部会」連携し、タブレット端末の学習ドリルを活用したり、探究的な課題に取り組みせる等、家庭学習の内容の工夫をすすめる。</li> <li>・「オンライン英会話部会」において、学期ごとに成果と課題を整理し、課題については、業者と連携して改善する。</li> <li>・来年度もGIGAスクール構想部会で、活用事例を共有したり、県教委主催の研修会への積極的参加を促したりする。Wi-Fi環境の改善もすすめて行く。</li> <li>・すべての教職員が積極的に活用できるよう、具体的な事例を周知する。</li> <li>・充電器の確保を図り、持ち帰った場合の有意義な活用法を周知する。</li> </ul>
(2)豊かな心の教育推進事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雄野市副読本「生きる力」の教科書(三訂版)を活用し、お便り等で保護者への周知を行ったりするよう推進し、インターネットやSNSについて、その功罪の理解を図る。</li> <li>・コロナ禍における「新しい生活様式」の中で、雄野の特産である「お茶」に関する学習を通して地域学習「雄野学」を模索しながら展開し、雄野市を愛する心や気質を高める「心の教育」を推進する。</li> <li>・持続可能な教育活動(SDGs)の理念の周知を図り、学校での実践を推進する。</li> <li>・巡回公演事業を積極的に招致し、優れた文化・芸術に直接触れさせるとともに、豊かな心の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雄野市副読本「生きる力」の教科書(三訂版)の資料を活用し、インターネットやSNS等の功罪を各校で計画的に学ぶことができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症が収束に向かわない中でも適切な感染対策で「雄野学」の取組が各学校で実施された。特に、お茶摘みや茶工場見学等を通して、雄野市の自慢の一つの学び味わうことができた。また、その取組は、新聞・テレビでも報道され多くの方に知ってもらえた。</li> <li>・SDGsについてNIEを通して学ぶなど各校ごとに工夫した取り組みがなされ、児童生徒の学びが広がっている。</li> <li>・文化芸術事業は、令和3年度予算の1公演を含め5公演を開催することができた。児童劇、オーケストラなど本物の芸術を鑑賞・体験し、児童生徒にとってよい経験となり、たいへん好評であった。他の5校も希望していたが採用されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に指導がなされているが、保護者への啓発が課題である。</li> <li>・来年度もコロナ禍の状況は続くと考えられる。今後も工夫した「雄野学」の取組が求められる。</li> <li>・コロナ禍の影響で出演者との交流に制限はあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観日等を利用して、インターネットやSNS、スマホの使い方、情報モラル等について保護者が学ぶ機会を積極的に計画するよう指導していきたい。</li> <li>・コロナ禍でも「雄野学」に係る体験活動を実施できるように、地域コミュニティ・保護者と連携し、学校独自の取り組みを推進する。</li> <li>・児童生徒がさらに積極的に取り組めるような工夫した取組を進めていきたい。</li> </ul>
(3)たくましい心身の育成事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教委主催による「スポーツチャレンジ事業」に積極的に参加し、各学校で工夫した体育的活動を取り入れたることを推進し、児童の運動に対する意欲と体力を高める。</li> <li>・学校、家庭、地域が連携して食育を行うことを推進し、朝食摂取率100パーセントを目指す。</li> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組み、1日の生活リズムの確立を図るとともに、コロナ感染予防のための生活を行うよう周知する。</li> <li>・不登校対応コーディネーターを中心とし、学校、教育相談員、S・SW等が連携し合い、共通理解のもと、それぞれの役割遂行したり、早期発見・早期対応に努めるたする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小学校で工夫した外遊びを推奨したり、マラソン大会を行ったりして、児童の運動に対する意欲と体力の向上に努めることができた。</li> <li>・地域と連携して野菜の栽培を行ったり、栄養教諭による食育指導を行うことができた。食育指導は、すべての学校で計画的に行うことができた。</li> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん実践リーフレット」を活用しての指導は12校中10校であった。しかし、すべての学校でチェックシート等を活用し、生活リズムの確立を図ろうとすることができた。</li> <li>・年間5回(1月までは4回)の合同連絡会を行い、不登校児童生徒の対応についての情報交換や共通理解を図ることができた。また、不登校対応コーディネーターが中心となって学校や関係機関、関係者と連携を図り、不登校の早期発見・早期対応に努めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業や部活、外遊びなどを行う時には、熱中症や怪我等の心配もある。そのようなことにも児童生徒自ら気をつけることができるようにしていかなければならない。</li> <li>・朝食摂取率100%は達成できていない。また、生活リズムの確立においては、ゲームやSNSの使用時間も自分で考えて使用できるようにしていかなければならない。</li> <li>・中学校の不登校者数が増加している。新規の不登校を生み出さないための対応や取組が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症や怪我等に対しても自分自身で気をつけて、外遊びや運動ができるよう熱中症警戒情報等の共有に努める。</li> <li>・生活のリズムを整えることの大切さに気づき、自分自身で確立できるように、養護教諭や栄養教諭と連携した取組を行っている。</li> <li>・子どもたちが自己有用感を高めたり、学校での居場所づくりを推進するとともに、引き続き学校、関係者、関係機関で連絡を密に行い、不登校及び不登校傾向児童生徒の情報共有や早期対応を行う。</li> </ul>
(4)特別支援教育等の推進事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインを踏まえた教育環境を作り、インクルーシブ教育を推進する。</li> <li>・市雇用の早期支援コーディネーターを活用し、幼児期からの教育相談や就学相談を行うことにより、本人、保護者に十分な情報を提供するとともに、関係機関との連携、幼稚園・保育園と学校及び子育て未来課との連携を密にし、児童生徒の適切で滑らかな就学や進学を目指す。</li> <li>・「特別支援教育部会」等において、特別支援教育に関する研修を行い、特別支援教育コーディネーターを各校に教職員の理解を深め、指導力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学校で、教室の掲示物を統一したり、必要な情報は視覚的に分かるように提示したりするなど、だれにとっても学びやすい教室環境づくりに取り組んでいる。</li> <li>・早期支援コーディネーターが、定期的市内の幼、保、認定こども園を訪問し、幼児の観望、保育者や保護者への支援の助言などを行った。子育て未来課、福祉課とも連携を密にし、保護者の思いに寄り添いながら、教育や就学をすすめることができた。</li> <li>・「特別支援教育部会」において、各学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、教育課程や個別の支援計画等についての研修を行った。8月に、県特別支援教育研究大会があり、各学校の特別支援教育コーディネーターが参加し、研修を深めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの視点で、すべての子どもにとって学びやすい環境づくりに引き続き取り組む必要がある。</li> <li>・幼、保、認定こども園への適応的な訪問で在園児についての支援はスムーズに行われているが、在宅児についての情報が把握しにくいので、福祉課、子育て未来課、健康づくり課とも連携し情報共有することが必要である。</li> <li>・全体的に児童生徒が抱える課題や困り感が多様化しているため、必要な指導支援を行うための職員のスキルアップを図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれにとっても学びやすい環境づくりや、わかりやすい授業づくりに学校全体で取り組んでもらうように、部会や学校訪問等で働きかける。</li> <li>・就学前の在宅児について、福祉課、子育て未来課、健康づくり課と連携をとって、早期からの教学支援を行う。</li> <li>・特別支援教育担当職員だけではなく、全職員のスキルアップを図るために、校内研修の充実を図り、県の障害のある子どもの学校生活支援事業」の活用や各種研修への参加を推進する。</li> </ul>
(5)校長先生の知恵袋事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生の学校マネジメント力の向上を図り、学力向上や体験活動の充実に向けた、特色ある魅力ある学校教育の推進を図る。</li> <li>・校長の学校経営ビジョンに基づき実施計画のプレゼンテーションを審査し、各校の独自性・主体性を生かした学力向上対策などの取組を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画にそって活動が実施され、特色ある学校教育の推進を図ることができ、校長のマネジメント力の向上につながった。</li> <li>・雄野中学校の「はらばら動画」を「うれしいまるく」で放映したり、NHK全国合唱コンクール佐賀県大会で、大野原小中学校のオリジナル演奏を披露したりと、地域へ発信された取組もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長の学校経営ビジョンに基づいた内容や、校長のマネジメント力を生かして、児童生徒の学力向上や豊かな心の育成につながる活動を工夫して行うことができ、大野原小にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長のマネジメントとして、本事業の目的に沿ったものであり、自校の児童生徒にとって必要なものを見極めるために、校長によるプレゼンテーション審査を行う。また、4月当初に、計画の見直しがないかどうか再確認を行う。</li> </ul>
(6)らくさんプラン教育推進事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校区において、令和の新時代を見据えた新たなスリステップを作成する。</li> <li>・雄野中学校区において、雄野市教育委員会指定の小中連携学力向上事業に取り組み、授業公開などを通して学力向上に向けた実践を発表し、指導方法を共有する。</li> <li>・学校生活において、小学校から中学校へ滑らかな接続ができるよう、「小中合同研修会」や「春休みの課題の工夫」など、学びの連続性を確立する。</li> <li>・ノーデジタルデーの同日実施など一貫性、統一性を持った指導の在り方を研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校区で、令和の新時代を見据えた新たなスリステップの作成がなされた。</li> <li>・雄野中学校区では、各学校の公開授業(小)中の教員が参加し、授業づくりや指導方法について相互に意見交換がなされ、連携が一層深まった。</li> <li>・「確かな学力育成委員会」で、小学校6年生への「春休みの課題」を3月に配付する準備をしている。</li> <li>・各中学校区で、「ノーデジタルデー」や「家庭学習強化週間」の同日実施など、一貫性・統一性のある取り組みが行われた。小中学校同日での実施によって、家庭と連携した取り組みができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなスリステップを、計画的に連携しながら進めることが課題である。</li> <li>・大野原小中、吉田小中は相互の乗り入れ授業や合同研修会が行われ、連携がとれている。雄野中学校区、塩田中学校区においても、相互の授業参観等を行い、連携をさらに強くすることが課題である。</li> <li>・今後も、各中学校区で一貫性・統一性のある取り組みを行うことで、9年間を見据えた教育を遂行していくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校区で2023年度から3年間を見据えた「らくさんプラン計画」を、「らくさんプラン部会」を軸として実施するよう働きかける。</li> <li>・各中学校区で小中相互の授業参観や公開授業研究会への参加を働きかける。</li> <li>・各中学校区の「らくさんプラン部会」を軸として一貫性・統一性のある取り組みを行うよう、引き続き働きかける。</li> </ul>

<p>評価委員からの指摘事項・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「不易と流行」を踏まえ、雄野市全小中学校における「雄野メソッド」による授業展開や各中学校区での「ノーデジタルデー」・「家庭学習強化週間」の同日実施、また、小学校における「オンライン英会話」の実施や中学校での「放課後等補充支援事業」活用による数学・英語指導の実施に取り組まれていること等は、「ゆるぎない」「切れ目のない」、そして、「進取」の「雄野市教育」と高く評価する。</li> <li>・雄野市独自の「心の教育」の取り組みである雄野市副読本「生きる力」や「雄野学」に係る体験活動の実施、NIEの実践などは、他都市のモデルになるものと評価する。雄野市副読本「生きる力」については、評価シート資料№11P16にある「ためにならなかった」のマイナス評価、特に「学習し不安になってしまった」等をどう改善していくかが課題であらう。</li> <li>・中学校での不登校児童生徒については、不登校支援コーディネーターを中心とした学校・家庭・地域による組織的・継続的な取り組みと、日々の雄野市学校教育の具体的施策(1)「確かな学力の育成事業」～(6)「らくさんプラン教育推進事業」の取り組みが、必ずや成果・効果につながることを期待する。</li> <li>・「校長が変われば、学校が変わる」と言われるが、雄野市の校長先生方の学校マネジメント力向上への取り組みは、計画的に行われていると評価する。各学校の学校評価(児童生徒、教職員、外部)の分析・活用等が、校長先生方の学校マネジメント力のさらなる向上につながっていくと考える。</li> </ul>	<p>評価結果(段階)</p> <p>A</p>
---	--------------------------

<p>指摘を受けての改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○雄野市副読本「生きる力」で学習して、不安になってしまった児童生徒がいることを全学校の教職員が共通理解すると共に認識を持ち、以下の対応を推進する。</li> <li>1) 指導する際に、不安をおおるのではなく、不安を解消できるように、自立して対応できる方法を合わせて指導にあたる。</li> <li>2) 指導前後に正しい知識や情報を得るとは大切なことであり、その知識があれば正しく行動・対応ができるということを指導の中心とする。</li> <li>3) 不安感を持った児童生徒への個別の対応を行う。</li> </ul>	<p>評価4段階</p>
--	--------------

<p>達成(80%以上)</p> <p>ほぼ達成(51～79%)</p> <p>やや不十分(50～21%)</p> <p>不十分(20%以下)</p>
---